

4. 厚生労働科学研究費補助金（免疫、アレルギー疾患政策研究事業）
分担研究報告書

職場における花粉症がもたらすプレゼンティーズムの評価

分担研究者 郡山みな美 千葉労災病院 医員

研究要旨

スギ花粉飛散ピーク時期に企業 9 社の社員を対象に、プレゼンティーズムと季節性の花粉症に関する調査を実施した。22 の質問に対して 1,316 人から回答を得たが、作業効率の評価には質問紙「WFun」を使用した。その結果、「過去 7 日間、仕事をする際、アレルギー症状がどれくらい効率に影響を与えたか」について VAS スケールでの質問では、7 点以上（影響が大きい）と答えた割合は 29%であった。花粉症の症状と作業効率低下との関連については、支障度が重度（7 点以上）と回答した割合は、「問題なし」の群で 13%、「軽度」の群で 20%、「中等度」の群で 28%、「高度」の群で 40%と増加していた。

研究協力者

米倉修二 千葉大学耳鼻咽喉科頭頸部腫瘍学 准教授
金子光裕 横浜労災病院勤労者医療センター

A. 研究目的

近年、健康経営において「プレゼンティーズム」（出勤はしているものの、健康上の問題により十分な業務パフォーマンスを発揮できない状態）が重要課題として認識されている。日本人の約 4 分の 1 が罹患するとされる季節性アレルギー性鼻炎（スギ花粉症）は、多くの薬剤利用や QOL の低下を引き起こし、プレゼンティーズムの主要な原因の一つと考えられている。日常生活及び職場における労働効率への影響は大きく、薬剤費や労働生産性障害を考慮した経費を含めると国内の年間の経済的損失は 4 兆円を超えたと報告されているが、科学的な詳細評価がなされていないため、本調査を実施した。

B. 研究方法

2025 年 3 月に 9 社（製造業・電気ガス業・電気機器業・サービス業）の社員を対象に、プレゼンティーズムと季節性の花粉症に関する調査を実施した。調査は 23 問からなる任意のアンケートで行い、周知社員数 6,613 人のうち 1,316 人から回答を得た（回答率 20%）。プレゼンティーズムの評価には質問紙「WFun」を使用した。

C. 研究結果

WFun 評価：対象者全体で問題なし・軽度が 74.5%、中等度が 11.4%、高度が 4.2%であった。「過去 7 日間で体調に与えた影響のある疾患について」という質問では、スギ花粉症の既往がある人（707 人、55.7%）

は、1 位がアレルギー性鼻炎、2 位が首の痛み・肩こり、3 位が目の症状と、花粉症に関連する症状が目立った。一方、スギ花粉症の既往がない人（609 人、44.3%）では、1 位首の痛み・肩こり、2 位疲労感・

倦怠感、3 位が背部痛・腰痛と、筋骨格系の症状が上位を占めた。

スギ花粉症有訴者に対して「過去 7 日間、仕事をする際、アレルギー症状がどれくらい効率に影響を与えたか」について VAS スケールで質問したところ、0～4 点（影響が少ない）と答えた者が 66%である一方、7 点以上（影響が大きい）と答えた者が 29%であった。さらに花粉症の症状分布と作業効率低下の関連を明らかにするため、WFun の分析によりアレルギー性鼻炎の支障度を調査した。その結果、アレルギー症状の支障度が軽度（0～4 点）と回答した割合は、WFun が「問題なし」の群で 78%、「軽度」の群で 57%、「中等度」の群で 56%、「高度」の群で 52%と答えた者が減少していた。一方、支障度が重度（7 点以上）と回答した割合は、「問題なし」の群で 13%、「軽度」の群で 20%、「中等度」の群で 28%、「高度」の群で 40%と増加していた。

D. 考察

今回花粉飛散期にアンケート実施したことによりプレゼンティーズムの存在が明らかになった。筋骨格系の問題に対しては産業保健の観点から対策を講じられていることが多いが、それと同等にアレルギー

性鼻炎に対しても社員の健康教育や室内に花粉を持ち込まない作業環境管理が必要であることが明らかとなった。

E. 結論

スギ花粉症がプレゼンティーズムと関連しており、アレルギー症状が重いほど労働生産性の低下が顕著であることが明らかになった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

H. 知的財産権の出願・登録情報

なし